



やらまいか

クラブテーマ：リラックス・ロータリー ～親睦と奉仕、肩の力を抜いて～

会長／樺山修一 幹事／細井勉 会報委員会／大仁孝泰・鈴木卓也 例会／毎週火曜日 12：30 豊川商工会議所
事務局／豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889 HP：<http://toyokawahoi.tank.jp/>

本年度第3回 通算1682回 2022年7月26日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	7/5 修正出席率
		72名	41名	64.1%	80%

ゲスト：市内6高校の生徒15名、教諭6名 ※Zoom参加者含む ビジター：(なし)

★会長あいさつ

樺山修一 会長



本日は夏休みの貴重な時間に生徒の皆さん、引率の先生方にお越しいただきありがとうございます。

新型コロナも

第7波に突入してしましまして、連日、感染者数の最大値を更新して未だピークが見えない状況です。残念ながら楽しみにしていた交流会は感染予防のため中止とさせていただきます。感染者数に一喜一憂するのもどうかと思いますが、政府は行動制限を行わないと宣言していますので、ここは皆さんお一人お一人の感染防止対策が大事になってきます。これまでの経験をもとに十分お気をつけていただきたいと思います。

さて、ロータリークラブは1905年アメリカのシカゴで誕生し今年で117年になります。日本では102年前の大正9年に東京ロータリークラブが最初にでき、豊川宝飯ロータリークラブは今年で創立38年になります。愛知県全体で4千人弱、我がクラブは72名の会員が在籍しており、親睦を通じて奉仕活動等を行っています。

ロータリークラブでは青少年関係のプログラムとして次のものがあります。「インターアクト」、豊川高校の皆さんは耳にしたことがあると思いますが、12～18歳の青少年を対象とした奉仕クラブです。豊

川高校にあるインターアクトクラブは豊川ロータリークラブが提唱クラブとなっています。「ロータリーアクト」、こちらは18歳以上という事で社会人や大学生が所属する奉仕クラブです。「ロータリー青少年交換」、15～19歳の学生を対象とした国際理解と平和を促進するためのプログラムで交換留学生と呼ばれ、世界各国におよそ一年間の派遣、受け入れを行っています。「ロータリー青少年指導者養成プログラム(RYLA)」、16～30歳の参加者を対象とした2泊3日程度の短期集中型のリーダーシップ研修プログラムです。

ちなみにロータリーメンバーのことをロータリアンと呼びますが、インターアクトメンバーをインターアクター、ロータリーアクトメンバーをロータリーアクト、青少年交換のメンバーをローテックス、ライラメンバーをライラリアンと呼び、ロータリーファミリーとされています。

我がクラブは現在これらのプログラムに直接の関与はありませんが、2006-07年度に発足されたこの「ボランコラボ穂の国7」は今年で16年目になるとも優れたプログラムです。

将来、生徒の皆さんが社会人になってからロータリークラブやこれらの言葉を耳にする機会があれば、本日のことを思い出していただけると嬉しいです。後ほどの各高校からの活動発表を楽しみにしています。今後もボランティア活動に励んでいただくことをお願い申し上げます。

★幹事報告

細井 勉 幹事

次回例会のご案内

★委員会報告

親睦委員会 井指和昭委員長
8月9日の納涼例会について

★青少年奉仕委員会担当例会

委員長あいさつ

熊澤克人委員長



こんにちは。本日、皆様にお集まりいただきましてありがとうございます。近年のコロナで思うように活動が出来ないことも多々あるかと思

います。この先もコロナはまだ続くと思います。そんな中でも高校生の皆さんがボランティアを続けていくというのは大変だと思います。皆さんの若い知恵と行動力で、これからの新しいボランティアを考えていって頂けると良いのではないかと思います。今日は、明日からの皆さんのボランティア活動の何か良いヒントとなればと思っています。短い時間ではありますが、最後までご参加頂きますように宜しくお願いします。

6 高校へ支援金の贈呈



Zoom 参加の国府高校さんへは例会後に熊澤委員長がお届けしました。



国府高校の発表

今から令和4年度、国府高等学校生徒会活動報告及び今後の活動予定について発表します。

私たち生徒会は、アイシティeco プロジェクト、清掃活動、ゆうあいの里ボランティアなどを行いました。

まず、赤い羽根募金についてお話します。3日間、購買や職員室で募金の呼びかけをし、その結果、生徒や先生方の協力で38,595円集めることが出来ました。

次に清掃ボランティアについてお話します。清掃ボランティアでは、自主希望の生徒や部活に所属している生徒に参加してもらい、校内だけではなく、私たちが登下校に使う道路や堤防の清掃を行いました。前日に雨が降り、側溝には雨水を含んだ大量の泥が溜まっていましたが、参加してくれた生徒と先生方のお陰で取り除くことが出来ました。

アイシティeco プロジェクトについてお話をします。この活動では、校内にコンタクトケースの回収ボックスを設置し、1年間空ケースの回収を行いました。プラスチックケースにコンタクトのフィルムがついていると回収が出来ないため、生徒の協力を得て、ケース一つ一つの確認を行いました。この回収したコンタクトケースは、リサイクル工場でゴナゴナにされ、加工工場で再生ポリプロピレン素材になり、様々なリサイクル製品に生まれ変わります。ボランティア活動への協力も多い一方、コンタクトのフィルムがついているものも多く、確認も大変だったため、来年度の生徒会役員には、呼びかけをしてもらいたいと思います。

ゆうあいの里ボランティアについてお話をします。この活動は生徒会役員と生徒の中から募った有志数名で、ゆうあいの里ふれあいセンターに行き花壇の除草作業などを行いました。作業中にふれあいセンターの利用者の方々からお声掛けを頂くこともあり、地域の方々との交流が出来た良い機会となりました。昨年は、新型コロナの影響で実施することが出来ませんでしたが、毎年行っているボランティア活動なので、来年度も行っていきたいと思います。

今後の行う予定のフードバンクについてお話をします。フードバンクとは、包装の印字ミスや賞味期限が近かったりする食品を福祉施設などに無償提供するボランティア活動です。この活動のメリットとして、食品廃棄物の削減、環境負荷の提言、貧困者の生活補助になります。

最後に、昨年度、豊川宝飯ロータリークラブの皆様から頂いたポプラの木は、今もすくすくと育っています。僕たちもこのポプラの木の様に人としてすくすく成長できるようにボランティア活動を積極的に行っていきたいと思います。

以上で、国府高校の活動報告を終わります。最後までご清聴ありがとうございました。

小坂井高校の発表

小坂井高校の発表を始めます。僕たちは前期に行った活動について4つ発表します。

一つめに衣料品回収です。支援団体に寄付するために各家庭にある不要な衣服を回収し、「いいとこシップ」に配送します。生徒会室前に段ボールを設置して回収を行い、傷や染みがあるかを一つ一つ判別しました。放送やポスターなどで生徒に呼びかけ、回収に力をいれました。衣料品回収は、本年度よりスタートした活動なので、集まる心配もありましたが、多くの生徒の協力のもと、衣料品をたくさん回収することが出来ました。回収した衣料品は途上国や被災地で衣服を手に入れることが難しい人たちなどに寄付され、社会に貢献することができます。また、もう着ることのない衣服を処分することで、部屋やクローゼットをすっきりできるため、気分がすっきりするという精神面での効果もあります。

二つめはコンタクトケースの回収です。各下駄箱に回収箱を設置して行っています。コンタクトケースの回収は、資源のリサイクル並びにその対価を、目の不住な方へ寄付するために行っているものです。また、近年の海洋汚染を受けて、プラスチックストロー廃止やレジ袋有料化が進み、環境保全に対する意識が上がっている中で、このコンタクトケースのリサイクルも当たり前になれば良いなと思っています。集められたケースは、リサイクル工場で洗浄して燃やさず粉砕するのでCO2削減にもつながります。また洋服や文房具など様々なリサイクル品に生まれ変わります。

三つめはペットボトルキャップの回収です。この活動は前年度から行っていて、多くの生徒の協力のもと、ペットボトルキャップを集めることが出来ています。回収したペットボトルキャップをリサイクル原料として再資源化を進めることで得た収益で世界中の子どもたちにワクチンとして貢献しています。また、ペットボトルの分別について調べたところ、ペットボトルとラベルを分別することにより、より

効果的に品質の高いリサイクルを行うことが出来るようになりました。高校でも簡単に行えることなので、次回から実践してみても良いのではないかと思います。環境問題の解決には、一人一人が自分できることと、小さいことを積み上げることが大切だと、この3つの活動を通して感じる事が出来ました。

四つめは小坂井高校で行われているフォトコンテスト「はぐまの先に」です。フォトコンテストとは、コロナ禍でもできる何かを探したいという生徒たちの思いから生まれ、去年の生徒会が企画しました。この活動を知った岡田建設が展示用のパネル製作に協力し、青山病院が場所の提供をして下さったお陰で、入賞した作品の学外展示が実現しました。更に、新聞社の協力のもと、新聞の一面に載ることができ、大きな反響をもたらしています。この展示を通して、少しでも小坂井高校や小坂井町の魅力が伝わればと思っています。

また学校内でコロナに関する標語を募集して、その中から選ばれたものを横断幕にして、近くの151号線に掲げる予定です。横断幕のデザインも岡田建設とのコラボレーションとなっています。コロナ禍でもたくさんの方々を支えられ、このような活動を行うことが出来ました。

前期の生徒会では、環境問題の解決に少しでも近づくことができるかもしれない、また小坂井高校を良いものにしたいという想いで活動してきました。活動を通して気づいたことや新たな考えを次のステップに活かしていきたいと思っています。最後までご清聴頂きありがとうございました。

豊川高校の発表

豊川高校生徒会執行部です。今から活動報告を始めます。宜しくお願いします。

エコキャップ回収、供養塔清掃、要望活動アンケート、未来をつくる高校生集会の4つの活動報告をさせていただきます。

エコキャップ回収についてです。豊川高校ではエコキャップを回収し、発展途上国の子ども向けワクチン代の支援をしています。2021年12月から2022年3月まで総重量28.8kgを集めることが出来ました。これは34人分のワクチン代になります。回収は各クラスの代議員に協力してもらい、週の初めに生徒会室で行っています。その際、回収箱を持ってきたクラスを確認します。改善点としては、なかなか報告に来ないクラスの対応を考えるのが遅かったこ

と、キャップを外さないまま捨てる人がいたことがあります。今後、回収率を上げるための改善策を考えていきたいと思っています。

供養塔清掃についてです。1945年8月7日豊川海軍工廠が空襲され2,500人以上の人が命を落としました。私たち豊川高校の先輩6人もこの空襲で命を落としています。8月7日は豊川高校にとっても大切な日であり、毎年8月7日を登校日に設定し、追悼式を行っています。今年の8月7日は日曜日ですが登校日であり、追悼式も行う予定です。戦後、この空襲で生き延びた海軍工廠の従業員や遺族が中心となって八七会を設立し、戦没者の慰霊、工廠や空襲の記録や語り継ぎなどを行っていました。しかし2020年8月7日、会員の高齢化のため止む無く活動終了となってしまいました。私たち豊川高校の生徒会執行部は、戦争の痛みを忘れないために、平和を未来に繋げるために何かできないかと考え、話し合い、八七会の意思を受け継いで供養塔の清掃を続けて行くことにしました。現在では、毎月7日と閣大祭の日に供養塔清掃を行っています。生徒会執行部だけではなく、部活動やクラスからの参加もあり、少しずつ平和の輪が広がってきています。この活動を通して地元の新聞に掲載されたり、元八七会の方から感謝状を頂いたり地域との繋がりを感じるようになりました。

要望活動アンケートについてです。豊川高校には、学校をより過ごしやすい学校にするため、生徒から意見を求める目安箱が設置されています。生徒会室前と食堂前の二か所に設置し、匿名での提出をすることで気軽に利用できるように工夫をしています。ですが、目安箱を利用する生徒は多くありません。そこで、要望活動アンケートを実施しました。要望活動アンケートとは、目安箱よりも幅広い意見の取り入れるため、全校生徒を対象にしたアンケートです。主な目的は、どのくらいの生徒が何に対してどのような意見をもっているのかを把握することです。代議員を通して各学級でアンケートを行い、生徒会執行部で集計をしました。現在は第2回アンケート実施に向けて動いています。このアンケートは、現在禁止されている小型扇風機を使用可能にするためのものです。これからも生徒会執行部で議論を重ね、生徒がよりよい学校生活を送れるように頑張りたいと思っています。

未来をつくる高校生集会についてです。6月12日に名古屋で開催された「未来をつくる高校生集会」に参加をしました。午前の部では、愛知県中の様々

な高校の平和や介護、防災についての発表を聞きました。他校の発表はとても良い刺激になり、私たちの未来をよりよくするために考えるキッカケになりました。豊川高校生徒会としては、供養塔清掃についての報告を行いました。午後の部では和太鼓部と共にパレードに参加しました。このパレードは高校生の思いを社会に訴えるためのものです。約600人が参加し、みんな思い思いに表現していました。私たちは傘に書いた“No worries”や“Peace”の文字と一緒に歩き、平和の大切さを訴えました。大通りを歩く一般の方々が私たちに目を向けてくれ、テレビにも取り上げられました。きっと声を上げていなければ誰の目にも届かなかったことでしょう。声を上げたからこそ、誰かの目に留まり、自分たちの想いを伝えることが出来ました。この集会を通して高校生である私たちだからこそ出ることがあるということ。選挙権のない人でも声を上げれば届き、想いを広めることが出来るということを学びました。ですが、行動を起こさなければ、何も変わりません。行動を起こすためには、まず周りの人を巻き込み、広めることが大切だと学びました。みんなを巻き込めば、必然的に想いが拡がり、想いを広めれば、影響力のある人の目に留まるはずです。そうすればきっと、その想いは現実のものとなります。集会を通して、もっと自分たちから声を上げていこう、生の声を広めて、よりよい社会を作って行こうと思いました。

以上で活動報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。

豊川工科高校の発表

今から豊川工科高校ボランティア部の活動報告をしたいと思っています。

私たちはカーボンニュートラルを知るためにエコクッキングをしました。今回の話の流れは、①エコクッキングとカーボンニュートラルの繋がり、②ボランティア部の取組み、③エコクッキングのメニュー、④カーボンニュートラルに関する工夫、⑤まとめの順でお話をしていきたいと思っています。

エコクッキングとカーボンニュートラルの繋がりです。食材などを無駄なく使い、ごみを減らす、そして同時調理をすることでエネルギーの節約になり、化石燃料を減らします。そうするとCO2の削減に繋がるので、エコクッキングとカーボンニュートラルは繋がります。

僕たちボランティア部の取組みとしては、初めにカーボンニュートラルとは何かを調べました。次にカーボンニュートラルに関するマークを調べました。そして調べたことを基に近隣のスーパーで現地調査を行いました。その時の写真をご覧ください。

次にエコクッキングの計画を立案しました。エコクッキングで作ったメニューは、炊飯器だけで作った野菜カレーとポテトサラダです。

カーボンニュートラルに関する工夫は、調理前と調理中の工夫があります。調理前の工夫としては、部員の親戚に農家の方がいたので、その方の協力を得て、傷がついていたり大きくなり過ぎてしまい商品にできなかった規格外の農作物を使いました。さらにエコマークのついた商品や国産の賞品を買い、輸送に必要なエネルギーを少しでも減らすようにしました。しかし、エコバックを持っていくの忘れてしまい、少しでもエコに繋げれるようにエコマークのついた袋を購入しました。調理中の工夫としては、省エネルギークッキングに挑戦をしました。そのため、研いだ米の上にクッキングシートを敷いて、おかずを一緒に炊く同時調理をしました。そうすることによって、おかずを作る時に使うエネルギーを節約しました。更に小さな工夫ですが、鍋底の水気をこまめに拭くことで効率よく加熱し、使用するエネルギーを減らしました。

カーボンニュートラルとは繋がりませんが、米の研ぎ汁で食器を洗うことで水の使用を押さえて環境に優しい取組みもしました。

まとめとして、カーボンニュートラルとは何か知らない状態でしたが、この活動を通してカーボンニュートラルとは何か小さなことだけど、人それぞれが意識し、意識しなければ地球温暖化が進むなど、人間が住みにくくなってくるので、自分たちのためにも、地球のためにも一人一人が意識しないとイケないなと思いました。このカーボンニュートラルとは壮大で目に見えて分かるように変化があまり感じられませんでした。けれど、変化が小さいだけであって、変化はしている、だから目に見えた変化がないからといって意識しないのではなく、小さな変化だからこそ、より一層意識して取り組むことが必要だと感じました。

以上で私たちの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

宝陵高校の発表

「ボランティア活動をする仲間を増やすには」愛知県立宝陵高等学校です。

現在、実習に半分の生徒が行っており、本日は生徒会が不在のため、清掃美化係という立場から生徒会活動外のボランティア活動について報告します。

本校におけるボランティアの取組みは、担当の先生のもとへ案内が届き、担任の先生がクラスで呼びかけをし、希望者が担当の先生に申し出ています。今年は福祉科2年生が積極的に参加をしています。

生徒会活動の一環として、クリーン活動を行っています。生徒会の呼びかけでたくさんの方々が一緒にクリーン活動を行いました。その様子の写真をご覧ください。ゴミや落ち葉を中心に集めたら、こんなにたくさんのゴミを取ることが出来ました。

6月5日行われた豊川リレーマラソンでは、福祉科2年生3名、1年生4名が参加しました。給水所や出店のお手伝いをしました。

仲間を増やすためにはどうすれば良いのか3つの意見が出ました。①活動の成果を報告する場を充実させる。どんな人と関わった、こんな発見があったなど、ボランティアに参加した生徒が伝えていく。②ボランティアを紹介するコーナーを作る。職員室の前やみんなが良くいく場所に。③ボランティア情報を載せ、配布する。生徒会新聞のようにする。という意見が出ました。

ご清聴ありがとうございました。

御津高校の発表

豊川宝飯ロータリークラブの皆様におかれましては、昨年度の花壇の花植えのご協力、本当にありがとうございました。

本日は、これまで御津高校が行ってきたボランティアについて報告します。

1つめにペットボトルキャップの回収についてです。これは去年から行っている活動の一つで海外の子どもたちに向けて、今の私たちが出来ることとして取り組んでいます。集められたキャップは、加山興業様のご協力のもと、ワクチンに変えられます。

次はウクライナ募金についてです。この活動は今年度に行われたものでMVPの2年生メンバーが中心となり進めてくれました。ウクライナ各地で激化している戦争により緊張と不安の中で過ごしている市民を少しでも手助けすることを目的として行われた

この募金では、6月6日から10日までの1週間、多くの先生や生徒が暖かく協力して下さいました。そのお陰で17,457円のお金を集めることが出来ました。このお金は、豊橋国際交流協会を通してウクライナに送られました。

微力ではありますが、MVPは世界に向けてのボランティアも行っています。もちろん校外ばかりではなく、校内の生徒のためのボランティアも積極的に行っています。

その一つが、Redio Mitoです。これは、黙食でお弁当の時間が寂しくなってしまうように音楽やトークで御津高校を盛り上げていこうというものです。毎週水曜日の10分間、盛りだくさんの内容をお届けしています。例えば7月6日は、夏と言えば“かき氷”と題して、かき氷が有名なお店を3軒紹介しました。その次の週の13日は、国際教養科の2年生がフィリピンへ約10か月の留学をするので、そのお話を聞きました。リクエスト曲や話題にしてほしいこと、更にDJも募集し、全校生徒参加型のRedio Mitoとなっています。夏休み後も、その時ならではの話題やニュースをお届けしていきたいです。

今後についてお話しします。

まずYORUMO-DEです。これも去年も行いましたが、今年は御津高校全体にボランティアを募集し、多くの生徒が参加してくれる予定です。豊川稲荷にももっともって活気を取り戻すため、地元の高校生である御津校生が盛り上げます。

次に夏休み中に行われる“I LOVE TOYOHASHI English Camp”へ参加します。これは豊橋の中学生とALTの先生方が4日間にわたって行うキャンプで、全ての工程をオールEnglishでおこないます。国際教養科がある御津高校にはピッタリのボランティアです。そこでは、ゲームを企画したり、ALTの先生方や中学生とたくさん交流する予定です。私は中学生の時にも参加をしたので、今度は企画する側として携われることにとても感謝しています。

最後に文化祭での活動です。中学生体験入学と文化祭を一緒に行う予定なので、その時の案内やPTAの方々が考えて下さっているバザーなどのお手伝いもします。去年はコロナの影響でバザーが中止になってしまっているので、今年がとても楽しみです。

御津高校は、来年度より御津あおば高校へと変わります。学校名が変わっても本来の御津のあるべき姿や取り組む姿勢は変わらず、積極的に様々なことにチャレンジしていきます。その中でも地域の皆様との繋がりを大切にしたいボランティアも積極的に行

っています。今後とも御津高校を宜しく願います。以上で発表を終わります。ありがとうございました。

★豊川市長表敬訪問

7月26日に豊川市の竹本市長を表敬訪問しました。



会報担当：大仁孝泰・鈴木卓也